

## コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年8月22日

新型コロナ：イギリスは秋のブースター接種計画にモデルナのオミクロンBA.1  
派生株ワクチンを組み込んだ

### 【松崎雑感】

オミクロン株のBA.1変異株もカバーする2価ワクチンができるまで、次の接種を待とうという方が少なくありません。しかし、とりあえずは、既存のワクチン接種をすることをお勧めします。これまでのワクチン接種でも、この変異株（派生株）にもほどほどの効果があります。たださらに何か月かこのワクチンの接種ができるまで待つと、新型コロナウイルス全体に対する免疫レベルが大きく下がります。そうすると元も子もありません。とりあえず淡々と既存ワクチンの追加接種を受けることをお勧めします。

# 新型コロナ：イギリスは秋のブースター接種計画にモデルナのオミクロンBA.1派生株ワクチンを組み込んだ

Mahase E. Covid-19: UK will roll out Moderna's omicron BA.1 vaccine as part of autumn booster programme. *BMJ*. 2022;378:o2038. Published 2022 Aug 17. doi:10.1136/bmj.o2038

ワクチン接種合同委員会（JCVI）は、モデルナ社のワイルド株（武漢株）とオミクロンBA.1派生株の両方をターゲットとした2価新型コロナワクチンがこれまでのワクチンとともに、接種される運びとなったと発表した。

NHSイングランドは、まだブースター接種をどのように進めるかは決めていない。しかし、英国健康安全保障局は重症化のおそれのある人々に投与される予定だと言明している。

## 今秋のブースター接種計画（JCVI）

18才以上	モデルナ2価ワクチン（BA.1 + ワイルドタイプ） モデルナ ワイルドタイプ ファイザー・ビオンテック ワイルドタイプ ノババックス ワイルドタイプ（アジュバント添加）
12～17才	ファイザー・ビオンテック ワイルドタイプ
5～11才	ファイザー・ビオンテック ワイルドタイプ（小児用）

この8月15日の発表は、医薬品およびヘルスケア製品規制庁(MHRA)が、モデルナ社の2価ワクチンを英国本島でも認可したと同じ日に行われた。

2価ワクチンの半量(25mg)はワイルド株向け、もう半量はBA.1向けの成分である。

### どのようなエビデンスがあるか

MHRAは、この2価ワクチンがBA.1とワイルドタイプの両方に「強力な免疫反応」をもたらすという研究データに基づいて承認した。その際BA.4/5にも良好な免疫効果があると付け加えている。

6月に投稿されたプレプリント論文によれば、進行中のⅡ～Ⅲ期臨床トライアル(オープンラベル)では、437名(従来のモデルナワクチン3回接種済み)に2価ワクチンを投与、377名には従来のワクチンの2度目のブースター接種を行なった[1]。

MHRAの2かワクチン効果に関する報告書には、このトライアルのサマリーと同じ記述が見られたため、本誌は、承認に至った根拠を問い合わせた[2]。

新型コロナ感染歴のない人々において、ワイルドタイプウイルスに対する中和抗体の幾何平均抗体価 GMT (geometric mean titer)は2価ワクチン接種の28日後で6422、ワイルドタイプワクチン接種の28日後で5286だった（有意差あり）。

一方、BA.1に対してはそれぞれ2479、1421だった（有意差あり）。

以上の成績から、2価ワクチンは、ワイルドタイプ向けワクチンよりもBA.1に対して有意に高い中和効果があり、ワイルドタイプに対しても同等以上の中和効果を持つことが明らかにされたことになると、プレプリント論文は述べている。

BA.4/5に対しても、2価ワクチンのGMTsは接種前の172から接種後940と5.4倍に増加した。

安全性と接種部位の反応については、オリジナルワクチンと2価ワクチン間に差はなかった。

## ウイルス変異は続く

ハッティンガム大学分子ウイルス学教授ジョナサン・ボール氏は、この承認に対して次のように語った。

「この初期データは、2種類の別々のスパイク蛋白をターゲットとした新しいモデルワクチンが、確かに新たなオミクロン派生株に有効であることを確かに示している。これらの派生変異株はこれまでの自然感染とワクチン接種によってもたらされた免疫を最も巧みにすり抜ける機能を持っている。このワクチンがオミクロン派生株を防ぐうえでよりよく機能することは間違いないだろう」と語った。

しかし、自分自身も次世代の新型コロナワクチン開発のための資金を得ているボール氏は、次のように付け加えた。

「しかしこのウイルスは、このまま黙っているはずがない。オミクロン株に対する免疫反応を改良するにつれて、ウイルスは別な方向に変異をするようになるだろう。このウイルスが今後大きく変異しなければ、とりあえずは、現存の変異株による重症化を防ぐことはできるだろうが…」

さらに、ロンドン衛生熱帯医学学校小児感染症免疫主任ベアテ・カンブマン氏は、次のように語っている。

「この2価ワクチンの実用化は歓迎すべきことだが、世界中の様々なエスニックグループなど多様な人々におけるトライアルがなされていないことは問題だ。しかし、最も大事なことは、『パーソナライズド・ワクチン接種戦略』を進めるよりも、冬に向けて（既存のワクチンによる）ブースター接種を対象を限ることなく、できるだけ多くの人々に呼びかけるという現実的なメッセージを広げることだ。そして、とりわけ高年齢あるいは基礎疾患をもつ感染弱者に対して優先的にブースター接種を行うことだ」